



支援を市域全域に広げ、かつその実践を全国に発信

全国の支援のフロントランナーをめざす

私たちはこれまで中学校区を対象に支援のひな型を創り、それを全国に広げ他地域の課題解決の一助になることを願い微力ながら活動してまいりました。

とりわけ子どもの居場所づくりの取り組みはおかげさまで 2017 年、2018 年と NHK 全国放送に 2 度取り上げていただき、また、2021 年には内閣府『子ども若者・白書』へのご掲載、政府広報「子どもたちの未来のために-地域に根ざす支援の現場」の放映へとつながってきました。

これらの取り組みを行う中、新型コロナウイルスの感染が拡大。緊急支援プロジェクトを行う中で社会的不利を抱える子どもや家庭がより一層不利に置かれている現状を目の当たりにしてきました。そのことから法人のコンセプトも対象範囲も体制もすべて組み換え、市域広域事業へと着手しました。

私たちがめざすのはこれからみなさんと創る取り組みを全国モデルとして発信し全国の支援のフロントランナーとなることです。

新たなチャレンジへと踏み出す当法人へぜひ継続したご支援はもとより新たなご支援をよろしくお願い申し上げます。

富田地区を基盤に広げていく

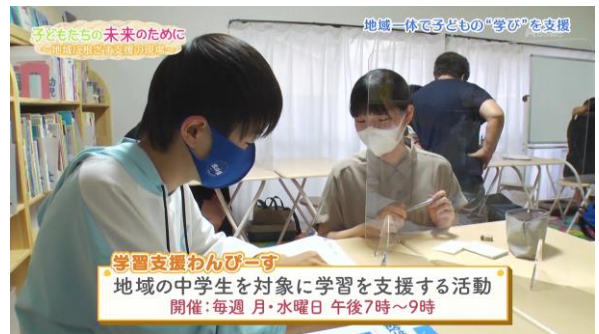
政府(内閣府)広報番組「子どもたちの未来のために」 ～地域に根ざす支援の現場～

子どもたちを支える包括支援

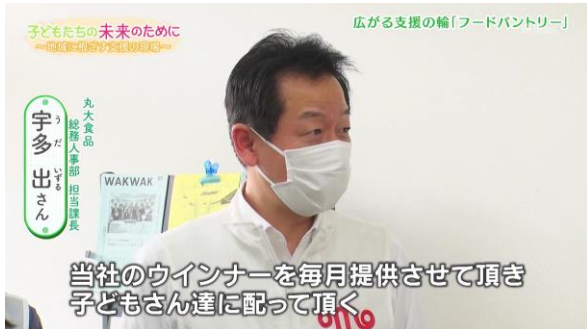
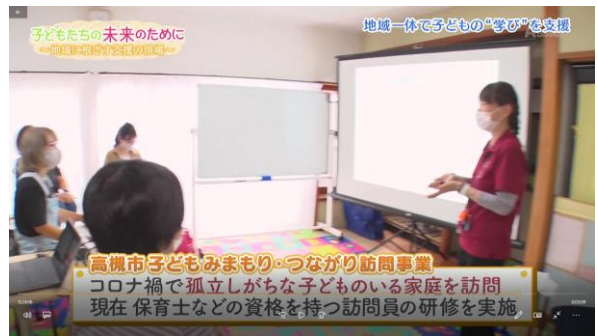


内閣府からご依頼をいただき、7月に当法人の子ども居場所づくり事業の一つである「学習支援事業わんぴーす」および「フードパントリー」等についてテレビ朝日映像株式会社に取材いただきました。その様子が内閣府特番として放映されました。

取材では、タレントのつるの剛士さんが富田地区に来られ、地域に根ざす支援の現場として行政、大学、学校、企業、民間の連携による子どもたちの包括支援をテーマに取材いただきました。



番組放映の様子

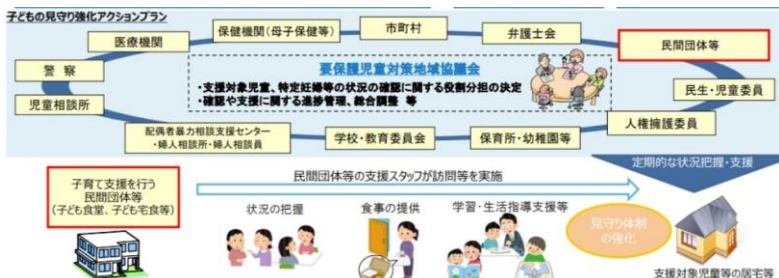


居場所の包括連携による 全国のモデル地域づくり

これまで中学校区を対象に行ってきた支援のひな型・ノウハウを市域広域に広げています。そのために「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業(市委託事業)」「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター)」をコミュニティスペース NikoNiko を拠点に新たにスタートしています。

01 高槻市子どもみまもり つながり訪問事業を実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもの見守り機会が減少し、児童虐待のリスクが高まっていることから、地域の目が行き届きにくい未就園児等がいる家庭を訪問するなどし、状況の把握や子育てに関する相談、子育て支援サービスの情報提供等、家庭での養育支援を行い、子どもの見守り体制の強化を図ることを目的に高槻市が実施する「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」を受託。市内 260 件を随時訪問しています。



長年の経験やノウハウの継承



実施にあたり市内の保育所の元所長や副所長、長年市民活動や子育て支援に携わってこられた方々9名をメンターにお迎え。また、市内において保育士をはじめ様々な子育て支援をされている子育て層30名を加え総勢約40名の方々が携わっていただいています。

専門性の研修と振り返りの場

実施にあたっては「高槻市の子育て支援」「子ども理解・親理解」「傾聴」「絵本を通して」「いろんな背景に思いをさせて」などの7回の訪問員研修と実際に訪問員として携わっていただく方々を対象に2回の実務者研修の計9回を対面、オンラインのハイブリッド形式で実施。

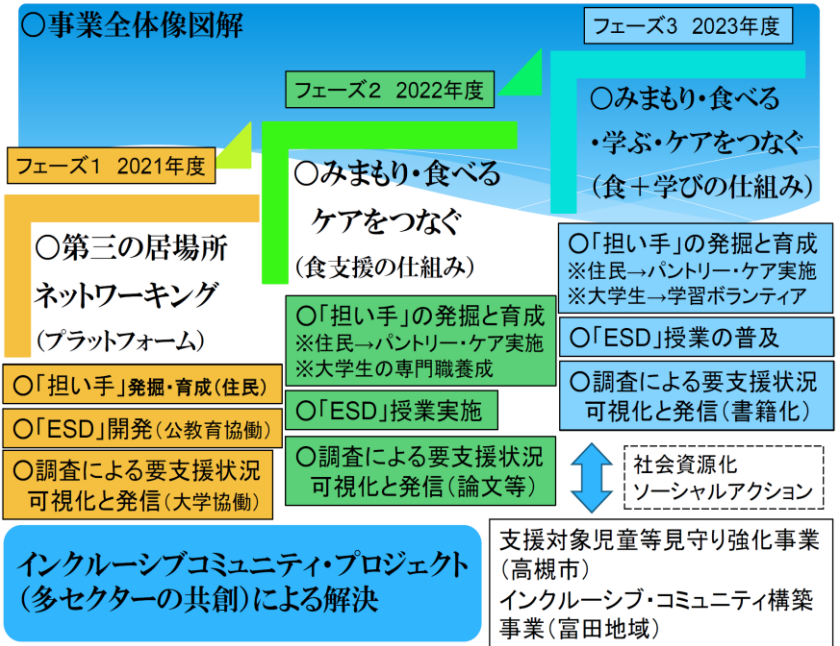
また、訪問開始後も隔月をめぐりに振り返りの場をもち訪問員さんの継続した養成を行っています。



02 居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)

もう一つの事業は、認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ(代表 湯浅誠さん)が休眠預金の通常枠事業として募集した「居場所の包括連携によるモデル地域づくり・全国」。

この事業では高槻市域を対象に、「つながる・食べる・学ぶ・生活を支える」をキーワードに①第三の居場所のネットワーク、②フードパントリー、③学習支援、④大学、元保育所 OG 等と連携した専門職・担い手の育成を行うことで高槻市域に民と民、官と民の連携による面(セーフティネット)を構築することを目的に実施しています。



※ネットワークとは：複数の団体や個人をつないでいくこと

※ESD とは：持続可能な開発のための教育のこと

○「地域から広がる第三の居場所講演会・シンポジウム」を開催

ネットワークの立ち上げのスタートに合わせ「地域から広がる第三の居場所-新型コロナ禍の子どもたち」講演会・シンポジウムを高槻現代劇場で開催しました。

講演会は社会活動家の湯浅誠さんをお迎えしてタウンスペース WAKWAK と高槻市民公益活動サポートセンター共催で開催。

感染拡大防止対策も行いながら会場とオンライン (YouTube 同時配信)併用での開催。

会場出席者は約 122 名、オンライン参加は 30 名を超えるたくさんの方にご参加いただきました。またご来賓として濱田剛史市長、吉田忠則市議会議長もお越しいただきました。ありがとうございました。



○第2部 市内活動団体によるシンポジウム

第二部は湯浅誠さんに加え、国立成育医療研究センターの原純子さんにコーディネーターを務めていただいて活動団体によるトークセッション。

パネラーとして高槻市内で「子どもの第三の居場所」を運営している川添子ども食堂・海老ヶ瀬正三さん、ひなたぼっこ子ども食堂・中村亜希子さん、ナルク高槻島本・田中千鶴子さん、高槻つばめ学習会・茶山敬子さん、そしてタウンスペース WAKWAK・岡本工介から活動立ち上げの動機と課題、これからの展望等について紹介。



○市域第三の居場所ネットワークの発足



一部・二部終了後、「第三の居場所ネットワーク」の立ち上げに向けた準備会を開催。

準備会に残っていただいたのは団体・個人の 57 名。参加団体の顔合わせと自己紹介の後、高槻市内において子ども分野を始め多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政等が一堂に会し、市内において協働しながら「第三の居場所づくり」を支援・行動していくためのプラットフォームを発足する趣旨を確認しました。

11月20日(土)午後1時半から現代劇場において第三の居場所ネットワークを正式発足。ネットワークには団体及び個人として60の方が登録いただき、当日は39名の方々がご参加いただきました。

座長に三木正博さん(元平安女学院大学子ども・教育学部学部長、高槻市子ども・子育て会議委員)をお迎えし各団体の活動紹介を皮切りに今後のネットワークの方向性について共有しました。

今後、隔月をめぐりに会を開催予定です。途中からのご参加も大歓迎なのでご興味頂いた方はぜひご参加ください。



03 ボーダレスアート展 オンライン開催



例年 12 月開催のボーダレスアート展は同時開催のフェスタ・ヒューマンライツが新型コロナ感染拡大防止による規模縮小のため、昨年引き続き、今回も YouTube 配信によるオンライン開催となりました。

配信は 12 月 5 日(日)~25 日(土)の期間限定で「わんだーぼっくす受講生の作品」に加え、7 月に開催された「Takatsuki Art Challenge 展」受講生出展作品もあわせて紹介させていただきます。

04 関西大学紀要論文執筆

当法人の取り組みを他地域の課題解決の一助とするべく関西大学人権問題研究室の委嘱研究員として実践を論文としてまとめています。

今回は、『多セクターとの共創による包摂型地域コミュニティ生成-高槻市富田地区大阪北部地震後のコミュニティ再生の取り組み(1)-』を執筆しました。インターネットでもご覧いただけますのでぜひご覧ください。

(https://kansai-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=21430)



info

新規会員募集とご寄付のお願い

タウンスペース WAKWAK では、賛助会員として、またご寄付を通して活動を応援して下さる皆様に募集しております。応援いただいた方には、年に 2 回~3 回発行している WAKWAK 通信などを送付し活動内容をご報告させていただきます。

○賛助会員 (団体) 1 万円 (個人) 1 千円

※いずれも年額(1 口)です。入会手続きと会費納入は同封の振替用紙をご利用ください。

○ご寄付 お振込みおよびクレジットカードによるオンライン寄付サービスも導入しています。

※同封別紙をご参照ください。

(編集後記)

これまでの中学校区を対象にした支援から広く市域全域へと支援対象範囲を広げました。今後、富田地区を基盤により多くの人に支援を届けていくためにもぜひ継続したご支援はもとより新たなご支援をぜひともよろしくお願い申し上げます。